

澤田産業のCC事業譲受

根津鋼材 長野と山梨拠点承継

大手コイルセンターの根津鋼材(本社=東京都荒川区、根津訓光社長)と同業の澤田産業(本社=東京都台東区、澤田重実社長)は、このほど、9月30日付で澤田産業のコイルセンター(CC)部門を根津鋼材に事業譲渡する基本合意書を締結した。澤田産業の加工・販売拠点である長野事業所(長野県千曲市)と甲府事業所(山梨県笛吹市)の土地建物・設備・在庫一式を根津鋼材が引き継ぐ。根津鋼材は自動化・省力化やシステム開発などの知見を持つ強みを生かし、両事業所の機能を一層強化するとともに、全工場の拡充する加工拠点網のさらなる最適化を図る。

9工場の加工網最適化

昨年末、後継者不在で事業承継を検討していた澤田産業側から根津鋼材に打診があり、今年1月末に交渉を開始。6月26日付で基本合意に至った。



澤田産業の長野事業所①と甲府事業所

の決め手となった。両事業所は10月1日付で根津鋼材・中部事業部傘下となり、長野事業所と甲府事業所の名称は変わらない。夢科事業所の安田純一所有が事業部長を務め、両事業所の所長は長野事業所の坂田茂樹所長と甲府事業所の高野浩

業所の副所長に夢科事業所の上原拓也課長代理が就く。根津社長は「今回、澤田産業さんからお話をいただき、ご縁があったCC部門を引き継ぐことになった。北信地区や山梨県内の地場のお客さまに愛されるコイルセンターを目指していきたい」と抱負を語り、今後は根津鋼材グループとして両事業所の機能向上と効率化を図る方針を示している。

【長野事業所】
▽住所=長野県千曲市屋代4310-1
▽敷地面積=約8200平方メートル、建屋面積=約4300平方メートル

▽主要設備=レベライナー2基(板厚対応0.4-2.3ミリ、同0.8-3.2ミリ)、スリッターライン2基(同0.4-3.2ミリ、同0.25-2.3ミリ)

【甲府事業所】
▽住所=山梨県笛吹市一宮町坪井976
▽敷地面積=約1万平方メートル、建屋面積=約1900平方メートル

▽主要設備=スリッターライン1基(同0.35-4.5ミリ)、レベライナー1基(同0.4-3.2ミリ)、ミニスリッターライン1基(同0.35-3.2ミリ)

東洋コイル鋼業からも

CC事業譲受 青梅の加工体制拡充

大手コイルセンターの根津鋼材は昨年11月に鋼板加工業の東洋コイル鋼業からコイルセンター事業を譲受し、白井工場(千葉県白井市)の土地・建物・設備一式を取得したことを明らかにした。白井工場の稼働は東洋コイル鋼業の廃業に伴い7月末で終了し、同工場の

8月中旬に完了する見通し。主要設備であるレベライナーとピンチロール、ロータリーシャワーを更新する。2022年には電気設備とアンコイラーの更新も実施しており、今回の更新工事ではレベライナーはほぼ全面的にリニューアルされたことになる。完工後は生産性が向上し、浦安事業所から月間1000トンの加工移管を計画する。

青梅事業所は21年に豊田通商グループの豊通鉄鋼販売から旧関東コイルセンターを譲受して開設した。母材の保管能力が高いことや、圏央道に近く北関東へのアクセスにも優れることから、同社では基幹拠点の一つと位置付け、取得直後から主要設備の改良を推進。直近では八潮事業所からミニレベライナーを移設したほか、浦安事業所からシャワーリング機1基の移設を予定する。

同社は需要変動などの構想変化や事業継続計画(BCP)などを考慮し、臨機応変に最適生産体制の見直しを実施している。受注案件ごとに加工を最適な立地の工場に振り分けることで、顧客の利便性向上や輸送距離の短縮を実現している。

取得した白井工場は今月からリニューアル工事に入っており、完工後の活用策については現在検討中という。